

胃^{がん}癌の最近の治療法

日本における死亡率の推移を見ると、癌による死亡率は昭和56年より死亡率の第1位を占め、平成16年には全死亡の31・1%を占めるようになってきています。胃癌の死亡率は以前は日本人の癌死亡率の第1位を占めていましたが、検診の普及により若干減少しました。それでも2003年には男女共に全癌死亡の2位と高率の死亡率となつています。あの王監督も胃癌になってしまいました。

他の肺癌・乳癌・大腸癌といった癌は欧米において罹患率が高いため、手術治療・抗癌剤治療が研究開発され、最も有効な治療が提示され(特に乳癌において顕著です)、日本においても導入されています。

しかし、胃癌については欧米での罹患率が低く、日本の手術・治療が現在世界最高水準というところになっています。検診の発達もあり、早期の胃癌の罹患率もつと多く、治療は手術による切除が現在のところ最

も有効な治療です。早期の胃癌であれば、92〜95%の5年生存率が期待できます。

最近では早期の胃癌にはいろいろな手術が行われています。極早期の胃癌であれば、胃カメラで切除も可能になってきています。手術跡も術後の後遺症も残さない治療です。再発率を増加させることなく自律神経を温存して術後の消化管機能の保存や胆石の発症をおさえる手術がされたり、幽門温存をして術後の体重減少を少なくしようとする手術が普及してきています。あの王監督のした腹腔鏡手術もあります。また、胃部分切除にくわえてセンチネルリンパ節生検といった極少数のリンパ節のみ術中検査してリンパ節の切除をひかえる縮小手術の研究もされています。

一方、手術治療の限界も徐々に明らかになり、進行癌やある種の胃癌、再発胃癌では手術治療のみでは再発を抑えられな

いといったことも分かってきました。そのような場合にはやはり抗癌剤治療ということになります。以前は胃癌の抗癌剤の奏効率は20%程度しかなく抗癌剤の効きにくい癌ということになっていました。近年になって、S-1、パクリタキセル、ドセタキセル、イリノテカ

ンといった新規抗癌剤が開発されて、従来の抗癌剤との組み合わせで奏効率50%というところまで抗癌剤治療が有効となってきました。その結果、切除不能だった胃癌に術前に抗癌剤治療を行って手術が可能になったり、再発した胃癌が小さくなって切除できたり、再

発しても以前より長生きできるようになってきました。しかし癌を完全に抗癌剤だけで治すことはまだ難しく、今後の研究によるところが大きいのです。

日本では胃癌検診が発達しています。現在都市圏では50%以上が早期胃癌で発見されています。胃癌になつても治すにはやはり少しでも早い時期に見つけて確実な切除をするこ

とが一番です。皆さんやっばり胃癌検診は大事ですよ！そして残念ながら進行して見つかったり、以前より治療の幅が広がっていますので頑張りましょう！

庄原赤十字病院
外科部長
佐々木 寛



がんの主要部位別・年次別・性別・年齢調整死亡率 (昭和45年～平成15年)

